

親野智可等講演会：資料

●目をつむる勇氣

親にも先生にも言えることですが、とかく大人は子どもの短所に目がいきがちです。「〇〇ができない。□□も苦手だ」と、足りない点ばかりを数えている人がたくさんいます。

私が多くの実例を見てきてわかったことは、短所に注目していつまでもそこをつついても決してよい芽は出ないということです。

大人は同じことを叱り続け、子どもはどんどん自信をなくし、すべてにおいてやる気を失います。叱られたストレスが兄弟や友達とのけんかの原因になり、それでまた叱られます。万事において悪循環が続くこととなります。

それよりも、本人の好きなことや熱中できることを応援して、たくさんほめて、先に伸ばせるところをどんどん伸ばしてあげてください。すると、子どもは自信がついて生き生きしてきます。がんばるエネルギーもわいてきて生活全般に張りが出ます。

これによって、いつの間にか短所が直ることもあります。直らないまでも、目立たなくなるということは非常によくあることです。

ほめてくれる親や先生の話は素直に聞く気になれますし、心が満たされているので兄弟や友達にも優しくなれます。つまり、万事においてよい循環が始まるのです。

悪循環を絶ってよい循環に変えるために、絶対に必要なのが、思い切って短所に目をつむる勇氣です。まずこれがないと、いつまでも同じことを続けることになり、循環の方向を変えることは決してできません。

というわけで、ぜひ思い切って、つまり今までの思いを切って、目をつむる決意をしてください。そうすれば必ずよい循環が始まります。

●共感型と正論型、あなたはどっち？

もし、子どもが「〇〇先生に叱られて頭にきちゃった」と言ったら、あなたはどうしますか？「そんなこと言っちゃダメでしょ。明日ちゃんと謝りなさい」と言いますか？

あるいは、「どうしたの？」「他にも騒いだ子はいたのにほくだけ叱られたんだよ」「それはイヤだね」と続けますか？ 私は前者の正論型より後者の共感型を強くお勧めします。

子どもが「けんかしちゃった」「部活をやめたい」「〇〇が欲しい」などと言ってきたとき、正論型の人はいつも「ダメ」や「ノー」で門前払いしてしまいがちです。

でも、これだと子どもは「話せば叱られるだけ。どうせわかってもらえない」と感じて本音を話さなくなります。ストレスを溜め込み、親に対しても素直になれなくなります。

親に共感型の対応してもらえると子どもは安心して本音が話せます。ストレスを溜め込まずにすみ、気持ちも安定します。そして、「自分のことをわかってくれる」と感じて相手を信頼するようになります。

もちろん、共感だけでは終われなくて、「ノー」やアドバイスが必要な場合もあります。その場合も、共感しながらたっぷり聞いてあげた後にしてください。

十分聞いてもらえてすっかり気持ちになっただけならば、子どもの中に相手の話を聞く余裕が生まれるからです。

子どもにとって信頼できる大人とは、自分のことがわかってくれる人、つまり共感してくれる人のことです。このことを理解して実行すれば、子どもに信頼されていい人間関係を築くことができます。すると、子どもに何か指示したいときも強く命令したりおどしたりする必要がなくなります。

●どの子にもオリジナルな成長ペースが内在している

子どもの成長は百人百様で、どの子にもその子独自のオリジナルな成長ペースが内在しています。早い子もいれば遅い子もいるのです。今の大人は子どもの促成栽培を目指しがちですが、早ければよいということではありません。

小さいときは手がかかったりパツとしなかったりしても、後になってぐんと伸びる子、尻上がりに伸びていく子はたくさんいます。

親や先生は「なんで、この子はいつまでもこうなの」と思いますが、その子は今そういう状態にいる内面的な必要性があるのです。そして、外からは見えなくても、本人の内側では確実に変化しているのです。

それは、さなぎの状態と同じです。さなぎは外からは変化が見えません。でも、内側では確実に変化が起こっていて、時が来れば羽化して成虫になります。

同じように、親や先生が子ども本人に内在するペースを大切にしてあげれば、必要な発達段階をしっかりと踏み固めながら進むことができます。無理に急かすと課題をこなさずまま進むことになりかねません。

ですから、親には待つ能力が必要です。待てない人は子どもの内なるペースを乱します。みなさん、ぜひ待てる親であってください。

■■■■無料メールマガジン■■■「親力で決まる子供の将来」■■■■■■■■■■
なんと、4万5000人以上が読んでいる教育界最高の超人気メルマガ

23年の教師経験を生かし、子育て、しつけ、勉強法、家庭教育について具体的に提案。
効果のある楽勉グッズもたくさん紹介しています。みなさん、ぜひお読みください。

メールマガジンの登録と解除は、下記HPより30秒。(講演のお問い合わせもHPから)

<http://www.oyaryoku.jp>

親力

検索



●ほめるコツ、それは部分をほめること

ほめることの大切さはわかっている。でも、実際はなかなかほめられない。このような声をよく聞きます。そういう人にオススメなのが部分をほめるという方法です。

例えば子どもの日記を見たとき、文字の雑さや表現の間違いが目につくことが多いと思います。でも、それを叱るのではなく、ほめられる部分を「見つけ出す」という意識で探してみてください。

まずは、偶然でもよく書けている字や相対的にマシな字を見つけて出します。ひどい字には目をつむって、ほめられる字をピンポイントでほめて、1つ1つ花丸をつけてあげます。

また、正直に気持ちを書けている部分や、おもしろい表現のところも見つけ出してほめます。これを続けていると、日ごとに文字は丁寧になり、表現もよくなっていきます。

「しっかり書きなさい」と言わなくても、自然にそうなります。もし、どうしても直させたいところがあるときは、たくさんほめてから最後に「じゃあ、ここだけ直そう」と言えば喜んで直してくれます。でも、これはあまり欲をかかずに少なめにしましょう。

算数でも同じです。正解でなくても、図を描いて考えた、式を書けた、筆算は合っていた、繰り下がりが書けたなど、ほめられる部分を見つけてほめてあげましょう。

勉強以外でも同じです。子どもの絵を見て「下手だなあ」と思うこともあるかも知れませんが、でも、部分に注目すれば「山の色がきれいだね」「このネコ、かわいいね」「足がたくましくて迫力があるよ」などとほめることができます。

野球の試合の後には、「思い切りバットが振れたね」「全力で走る姿がかっこよかった」「すごくいい声が出てたね」などとほめます。

性格や行動の面でも同じです。至らない部分や苦手なことには目をつむって、ほめられる部分をほめましょう。

でも、実際は、その反対にほめられる部分には目をつむって、至らない部分を見つけて出して咎めている人がほとんどです。親がこのような粗探しの名人だと、子どもはたまりませんね。

この「部分をほめる」方法は、あらゆる相手・状況において有効です。なかなか人をほめられない人は、ぜひ実践してみてください。

●親が寛大なら子どもは正直になれる

親なら誰でも子どもを正直な子に育てたいと思っています。でも、その気持ちが強すぎると逆効果になってしまうことがあります。

私が知っているあるお母さんは、子どものちょっとしたウソ、ごまかし、ズルを絶対許さない人で、子どもが少しでもウソをつこうものなら厳しく問い詰めて叱りつける人でした。

あるとき、子どもが学校からのお便りを親に渡し忘れて、二日ほどカバンの中に入ったままになっていました。その子は三日目に気づいておそろおそろ渡したのですが、お母さんは何か怪しいと感じて「これいつもらったの!」と強い調子で聞きました。

それで、子どもはつい「今日もらった」と答えてしまいました。その態度が怪しいと感じたお母さんは、本人に問い詰めましたが「今日もらった」の一点張りです。

業を煮やしたお母さんは、クラスのほかの子に聞いてウソだということを突きとめました。そして、子どもが二度とウソをつかないようにと徹底的に叱りつけました。

このお母さんほどでなくても、これに近い人はけっこういます。そして、そういう人はウソについてだけでなく、ほかのしつけ一般についても厳しすぎる人が多いようです。

こういう親と過ごさなければならぬ子どもは、とても息苦しい毎日を送ることになります。つねにびくびくして、自分を守るためにかえってウソをつくようになります。

子どもを正直に育てたいと思ったら、ウソをつかなくてもいいようにしてあげることが大切です。心が広くて寛大で、明るくてユーモアがあり、ミスや失敗など笑って許してくれる、そういう親なら子どもは安心して生活できます。

先生に叱られたこと、友達とけんかしたこと、テストでひどい点を取ったこと、やるべきことをサボったことなど、なんでも正直に話すことができます。

信頼と安心が土台にあるからこそ、心を開いて正直でいられるのです。恐れをもとに押しつけられた正直など、決して本物にはなり得ません。他者を恐れる気持ちが身についてしまい、心を開けなくなるからです。

●子どもはユーモアのある大人が大好き

子どもが食後の歯磨きを忘れたとき、あるお父さんはこう言ったそうです。「食べ終わったらすぐやることって何だったかな。あ、思い出せないよ。さっきまで覚えていたのに忘れちゃったよ。あ、何だったかな」。

お父さんは、変顔をつくったり頭を抱え込んで身もだえしたりしながら言ったそうです。すると、子どもが「歯磨きだよ! パパ忘れちゃったの?」とうれしそうに言いながら洗面所に走っていき、歯を磨き始めたそうです。

それで、お父さんは「そうだった。ありがとう。助かった。お父さん、また忘れるかも知れないから、忘れてたら教えてね」と言いながら自分も磨きました。

普通だったら、「ちゃんと磨かなきゃダメだろ」と叱ってしまいそうな場面です。でも、ユーモアを交えながら楽しくやらせることもできるのですね。

このお父さんは、日ごろから1日1回は子どもを笑わせるようにしているそうです。いつも上から視線で子どもを叱ってばかりの親には、思いもよらないことだと思います。

そもそも、ユーモアはサービス精神の表れです。そして、サービス精神は相手を尊重する気持ちが根底にあってこそ生まれてくるものです。

ですから、子どもを一人の人間として尊重できる大人だけが、子どもに対してユーモア精神を発揮できるのです。「なんで子どもを尊重する必要があるのか。子どもなんて叱ってやらせればいいんだ」と思っている大人にはできないわけです。

子どもはユーモアのある大人が大好きです。そういう大人なら子どもの気持ちを尊重してくれるということ、本能的に知っているのでしょうか。そして、子どもは、自分を尊重してくれた相手に対して尊重をもって対応するようになります。

ユーモア精神を発揮する上でもう一つ必要なのは心の余裕です。ですから、何でもかんでも抱え込まず、やるべきことを精選し、生き方をスリム化して余裕を生み出しましょう。

また、逆に、ユーモア精神を発揮することで心の余裕が生まれてくるということもあります。ですから、怒りを爆発させて叱りそうになったときこそ、何か面白い伝え方を考えて実行してみるといいと思います。

●本当にあった！ 楽しく学力を上げる方法とは？

子どもの学力を上げる方法で、私がお薦めしたいのは生活や遊びの中で楽しみながら知的に鍛える楽勉です。

たとえばリビングに地図帳と図鑑を置き、テレビで山梨県のブドウを見たら植物図鑑でブドウを調べ、地理図鑑と地図帳で山梨県を調べます。

図鑑にはいろいろなブドウの写真や説明が出ています。写真を見るだけでもブドウについての知識が増えますし、説明を読めばさらに詳しく知ることができます。

動物、昆虫、魚、宇宙、人体、歴史、世の中の仕組みなど、いろいろな図鑑を用意してどんどん調べられるようにしてあげましょう。

一日ひとつ調べるだけでもその分知識が増えます。何も調べない場合と比べれば、半年や一年経ったときの知識の蓄積はとても大きなものになります。

マンガを楽しみながらいつのまにか知識が増える学習マンガもお薦めです。私の教え子の中にも、地球の秘密、四字熟語、日本の歴史などの学習マンガが家に何十冊もあって、そのおかげで勉強が好きになった子がいます。

トイレに学習ポスターを貼っておくのも効果的です。イラスト入りの地図、歴史年表、四字熟語の一覧、九九表などです。毎日見ていると子どもはけっこう覚えます。

カルタやカードゲームを楽しみながら、大切なことが覚えられるのが楽勉カルタ・ゲームカードです。都道府県、漢字、歴史人物、星座など、勉強として暗記するのは面倒なものです。カルタなどのゲームになっていると楽しみながらいつの間にか暗記できてしま

います。

楽勉は一見遠回りのように見えますが、実は一番の近道です。毎日の生活の中で、少しずつ知識を増やす積み重ねが実に大きいからです。

そして、自分が少し知っていることについてある日学校で勉強したりすると、子どもはともにおもしろく感じることが出来ます。山梨県について少し知っている子は、授業で山梨県の勉強をするとき、何も知らない子より自信をもって意欲的に臨めるのです。

~~~~~

●「勉強しなきゃダメでしょ」と言わなくて済む方法とは？

子どもがなかなか宿題や勉強をやらなくて、「勉強しなきゃダメでしょ」と毎日叱っているうちも多いことと思います。これについても合理的な工夫が必要です。

ぜひ工夫してほしいのが勉強に取りかかりやすくする方法です。たとえば、リビングに広くて浅い箱を置き、学校から帰ったらすぐにカバンの中身をすべてその箱の中に出すようにします。

たとえばそのとき宿題をやらなくても、これだけはやっておくようにします。すると、いざ勉強となったときに、宿題の計算プリントや漢字ドリルが手に取りやすくなります。

さらに、それらを箱から出してテーブルや机の上に並べておけばもっと取りかかりやすくなります。ページを開いて下敷きを入れておけば、また一歩近づきます。

そして、さらに効果的なのが取りあえず一問方式です。つまり、計算プリントなら一問、漢字書き取りなら一字だけ、取りあえずやっておくのです。

一問やるときに当然のことながら全体が目に入ります。すると、漠然とながら終わりまでの見通しがつきます。これによって、いざ勉強というときに取りかかりやすくなるのです。

おとなの仕事でも、見通しがつかなくて終わりが見えないときは本当に苦痛です。見通しがついた瞬間に、気持ちが楽になってやる気がわいてくるというものです。

さて、このような工夫が一切なくて、すべてがカバンの中に入ったまま手つかずの状態だとどうなるでしょう？

宿題があることはわかっていますが、どの程度のものなのかまったくわかりません。時間が経てば経つほど、得体の知れない巨大な不安がますます大きくなり、よけい取りかかれなくなります。

~~~~~

●子どもが「宿題やりたくない」と言ったとき

子どもが「ああ、今日は疲れちゃった。宿題やりたくない」と言い出して困ったことはありませんか？ それを聞いて、ほとんどの親は「何言ってるの？ ちゃんとやらなきゃだめでしょ！」と叱ると思います。

でも、これでやる気が出る子がいたら奇跡です。やる気が出るどころか、かえってやる気をなくすのがオチです。

こういうときは、叱るのではなく、逆に「本当に大変だね」「ああ、宿題か…。イヤになっちゃうよね」と共感してあげてください。

親に共感してもらえると、子どもは「自分の大変さがわかってもらえた」と感じて、それだけで気持ちが楽になります。

そして、しばらく様子を見ながら、頃合いを見計らって「でも、しょうがないから、ち

よっただけやってみよう」「手伝ってあげるから、一緒にやろう」と言ってみてください

。「ちよっただけ」「手伝ってあげる」「一緒に」などの言葉が、子どもの負担感をかなり軽くしてくれます。すると、子どもも「やらなければ」という気持ちはあるので、意外と素直にやり始めてくれるものです。

そして、やり始めて軌道に乗ってくれば、けっこう自分でどんどんやれるものです。

同じことは大人でも言えることです。たとえば、家に持ち帰った仕事があるとき、「ああ、仕事したくない。イヤになっちゃう」と、愚痴の一つも言いたくなります。

このとき、旦那か奥さんに「何言ってるの？ちゃんとやらなきゃだめしょ！仕事なんだから」と正論で突き放されたらどうでしょうか？ストレス倍増で、やる気など出るはずがありません。

逆に、「本当に大変だね。会社で一日働いて、また家でもやらなきゃならないなんて、疲れちゃうよね」と共感してもらえれば、気持ちが楽になります。そして、「まあ、しょうがないか。やるっきゃない」という気にもなれるというものです。

これは、子どもの宿題のみならず、家庭でも職場でも万事において当てはまります。常に、正論よりも共感を大切にしてください。

●子ども自身が好きなことを応援すると良いことがいっぱい
子どもを伸ばしたいと思ったら、子ども自身が好きなことや熱中していることを応援してあげるのが一番です。でも、ほとんどの親はこれできません。
例えば、虫のことしか頭にない、新幹線に夢中だ、金魚に熱中している、某キャラクターのことで頭がいっぱいなど、子どもの熱中対象は親の価値観に合わないことが多いからです。
もっと意味のあることに熱中して欲しいというのが親の本音であり、「そんなことはやめて勉強しなさい」と言ってやめさせてしまう親もいます。
でも、これはとてももったいなことです。なぜなら、そこにこそ、本人のやる気の最前線があるからです。ぜひ、本人がやる気になっていることをほめて、もっと熱中できるように応援してあげてください。
例えば、親も付き合っただけで、図鑑を買う、博物館に連れて行く、図書館で一緒に調べ、本物を見せる、必要な用具を買う、熱心に取り組む姿を写真に撮る、などです。
親の応援があると子どもはもっと熱中できて、「これなら誰よりも得意」と思えるようになります。すると、子どもは自分に自信が持てるようになり、他のことでもがんばれそうな気持ちになってきます。
また、夢中になって頭を使っているうちに、理解力、思考力、記憶力、追究力、情報活用能力など、“勉強”をする上で大切な能力がぐんぐん身につきます。つまり、頭がよくなるのです。
また、自分が好きなことをほめてもらったり応援してもらったりすると、子どもは親の愛情を実感できるようになります。すると、親子関係がよくなって、親子ともども楽しく幸せな毎日を送れるようになります。

~~~~~  
●学力アップには図鑑がオススメ  
子どもに学力をつけてあげたい。勉強を好きにしたい。親なら誰でもこう思っているはず。そのための一つの方法として、私は図鑑の活用をお勧めしたいと思います。

実は、いま日本では図鑑革命と図鑑ブームが同時に進行しています。つまり、いままでの図鑑の枠に収まらない新しいタイプの図鑑がどんどんと出版されて、いずれも大ベストセラーになっているのです。  
いままでの図鑑は、例えば昆虫図鑑ならたくさんの昆虫の写真が羅列的に載っていました。これだと、もともと昆虫が好きな子には面白くても、そうでない子には面白くなかったと思います。  
ところが、近ごろ相次いで登場している図鑑は、何かを羅列的に載せたものではありません。例えば、“秘密”というテーマをもとに編集した図鑑があります。これは、子どもが興味を持ちそうな乗り物、生物、宇宙、体、生活などの面白い秘密を解き明かしてくれる図鑑です。  
また、“一番”というテーマをもとに編集した図鑑は、速さの一番、高さの一番など、いろいろな一番を紹介しています。“比べる”というテーマで編集した図鑑は、動物や建物の大きさを比べたり、泳ぐ速さを比べたりしています。  
これらの図鑑は、もともと子どもが興味を持ちそうなテーマを選びすぐってつくってあります。しかも、ビジュアル重視なので美しく迫力のある写真が満載です。文章も通一遍の説明ではなく、子どもが楽しく読める読み物風になっています。  
このような工夫によって、いまの図鑑は子どものみならず大人でもワクワクしながらページをめくられるようになっています。ですから、もともと興味がなかった分野についても楽しく読めて、いつの間にか豊かな知識が身についていきます。  
これらの知識が、やがて学力につながっていきます。また、図鑑に親しんでいるうちに、漢字も読めるようになり、語彙も増え、読解力もつきます。これがまた学力の底上げにつながります。

~~~~~  
●学習マンガでいつの間にか学力が上がる
みなさんは学習マンガというものをご存じですか？ これは、ただのマンガではなく、子どもたちが学ぶべき勉強の内容をマンガで教えてくれる優れたものです。
歴史マンガや伝記マンガをはじめとして、漢字のひみつ、宇宙の謎、計算のコツ、マンガ〇〇教室など、いろいろな勉強の内容がマンガになっています。
日ごろから学習マンガに親しめる環境をつくってあげると、子どもの学力はびっくりするくらい伸びます。
学習マンガのいいところは楽しく気軽に読めることです。実際、勉強や読書は苦手だけど学習マンガなら読むという子はたくさんいます。

しかも、内容はとても充実しています。たとえば、6年生の教科書で平安時代の説明は4ページくらいしかありませんが、学習マンガだと1冊丸ごと平安時代を扱うので120ページくらいになります。

非常に充実した学習内容ですが、マンガのストーリーの中に組み込む形で教えてくれるのでわかりやすいのです。また、ストーリーと関連づけて頭に入るので記憶にも残ります。

。ある男の子は昆虫が大好きで、常に数種類の昆虫を飼っていました。ある日お父さんが昆虫の図鑑と学習マンガを買ってくれて、さらに昆虫に熱中するようになりました。

その後も、昆虫の図鑑や学習マンガを着実に買い揃えて読みまくり、近所に並ぶ者のない昆虫博士になりました。それで自信がつき、前よりずいぶん明るく積極的になりました。

。私の教え子でも、中学年から歴史マンガを読みまくって6年生で歴史博士と言われるようになった子や、植物の学習マンガのおかげで植物博士になった子もいます。

苦手な分野について学習マンガから入るというのもいい方法です。たとえば、漢字が苦手という場合、漢字の成り立ちや同音異義語の使い分けをマンガで読んでいううちに、興味を持てるようになることもあります。

ただ、いくらマンガでも苦手分野のものを読むように無理に強制すると、よけいに嫌いになってしまうこともありますので気をつけてください。

●身近な人にこそ思いやりを
職場で誰かが「コヒカッブを落とすか」と言います。あなたは「だいじょうぶ？
けがはない？」と言います。「服は汚れなかった？」と心配
したり、かわりのコヒカッブを入れてあげたりするかも知れません。間違っても、「何やっ
てるの！ 気をつけなきゃダメでしょ」と責めたりはしないはずで
ところが、自分の子どもが同じことをした場合は、まったく違う言動になります。ほと
んど人の最初の一歩は、「だいじょうぶ？」ではなく「何やってるの！」になると思
います。「なんでそんなにそっかしいの？ 気をつけなきゃダメでしょ」とか「落ち着
きがないからだよ！」などと言ってしまいかも知れません。
また、例えば職場の同僚が仕事が大変だと愚痴をこぼしたとしたら、あなたは「本当に
大変だね。イヤになっちゃダメでしょ」と共感するはずで、間違っても、「仕事なんだか
らしょうがないでしょ」と正論で責めたりはしないはずで
ところが、子どもが宿題の愚痴をこぼした場合は、「何言ってるの。ちゃんとやんなき
ゃダメでしょ」となります。なぜかという、「子どものため。しつけや教育のため」と
いう思い込みと「親だから許される」という勘違いがあるからです。
そして、この思い込みと勘違いこそが、親子の人間関係を崩壊させる最大の原因です。
親子関係が崩壊すると、しつけや教育どころではありません。子どもは人格形成にも影響
しますし、親子で長い間苦しむことにもなります。でも、親にはそれが見えていません。
他人同士の場合は、よい人間関係をつくらないと自分が苦しくなることが目に見えてい
ます。それで、相手の気持ちを汲んだ思いやりのある言動ができるのです。本当は、職場
の人間関係よりも、親子の人間関係の方が大切です。親子だけでなく、夫婦関係や兄弟関
係もそうです。私たちは、本当に大事な人間関係を粗末にしています。一番身近で大切な
人に対してこそ、相手の気持ちを汲んだ思いやりのある言動をしていきたいものです。

●最高の親子関係と他人以上に冷え切った親子関係
これはある60代の男性の話です。その人は自分の息子を育てるに当たって、「世間に
後ろ指を指されないきちんとした人間にしたい。大人になって本人が恥ずかしい思いをし
ないようにしっかりしつけない」という気持ちが強くあったそうです。
それで、小さいときから「また○○してない。なんで○○しないんだ。○○しなきゃダ
メだ」と毎日叱って育てました。あるとき、「使った物を片づけてなかつたら捨てるぞ」
と宣言し、子どもが作りかけのプラモデルや遊び途中のボードゲームを庭に捨てました。
食べ物の好き嫌いを直そうと、子どもが嫌いな物を毎日食卓に出したり、無理矢理食べ
させたりしました。正直な人間に育てたいと考えたので、子どもがちょっとでもウソをつ
くと徹底的に追究して叱りました。
その結果、息子は何かにつけ自信がないおどおどした感じ
の青年になりました。当然ながら父親のことが大嫌いで、一緒に空気を吸うのも嫌だそう
です。父親から離れた一心で遠くの大学に進学し、そのままそちらで就職しました。
今は結婚して子どももいます。父親に会いたくないので結婚式は夫婦2人だけで済ませ
ました。そして、年に一度だけ母親に会いにきます。父親がいない日を母親に教えてもら
い一人で来ます。そして、母親に会ったらすぐ帰ります。父親とはもう何年も会っていま
せん。一生会うつもりはないそうです。自分の住所は両親共に知らせてありません。
父親は、自分のおこないを振り返って「叱りすぎた。もう一度息子がゼロオの時から や
り直せたら」と嘆いています。本当は、親子だったら最高によい人間関係になれたはずで
す。ところが、他人以上に冷え切った関係になってしまいました。
この親子だけでなく、世間には他人以上に冷え切った親子関係はけっこうあります。そ
の原因の第一歩はやはり親にあると言わざるを得ません。親という権力的な立場に甘えて
、「この子のためだ。しつけのためだ。ひどい言葉も親なら許される。自分の子どもに何
の遠慮があるのか？」とやりたい放題。その結果は自分で刈り取らなければならないので
す。

今現在このような道を進みつつある人はいませんか？今すぐ方向転換してください。

●子育ての初心に戻って親の欲を見つめ直そう
みなさん！子供が生まれたときのことを思い出して、初心に戻ってください。「生まれ
てくれてありがとう」「なんて愛おしいんだろう」。そういう気持ちでいっぱいだったの
ではないでしょうか？そのときは、子供に多くのことを求めていなかったはずで
それが、今ではどうでしょう？「勉強ができる子になってほしい」「運動もできてほし
い」「片づけも…」「挨拶も…」「生活習慣も…」などと、子供に求めることが際限なく
増えてしまっています。そして、できないからと言って叱り続けています。
「親の願い」と言えば聞こえはいいですが、実はすべて親の欲です。ありのままの子供
を受け入れずに、もっとももっとと求める気持ちは、欲以外のなにものでもありません。こ
の親の欲のために子供たちは苦しんでいます。
今夜、子供の寝顔をじっくり見てみてください。あどけない寝顔を見ているうちに、子
供が生まれたときのことを思い出されてくると思います。そうすれば、親としての初心も

思い出されてくるはずで。

忙しい生活の中で追われまくっていると、子供のかわいい寝顔を見る時間も取れません。それで、いつの間にか親を困らせる顔ばかりがその子の顔だと思えてくるのです。

寝顔こそが子供の本来の顔です。親を困らせる顔は、その子の本来の顔ではありません。

子供が起きているときそういう顔にならざるを得ないのは、もともと親が子供のありのままを受け入れずに、自分の欲を押しつけているからなのです。

子供はみんな一生懸命やっています。サボっている子など一人もいません。もって生まれたその子独自の成長ペースというものがあり、みんな自分のペースでがんばっているのです。小さいときから何でもしっかりできる子もいれば、そうでない子もいます。後で尻上がりに伸びる子もいますので、成長が早ければいいというものではないのです。それがわかっていないと、親が子供のペースを乱すことになり、子供に多大なる迷惑をかけることとなります。

■■■■無料メールマガジン■■■「親力で決まる子供の将来」■■■■■■■■■■

23年の教師経験を生かし、子育て、しつけ、勉強法、家庭教育について具体的に提案。

メールマガジンの登録と解除は、下記HPより30秒。(講演のお問い合わせもHPから)

<http://www.ovaryoku.jp>

親力

検索

●子どもを幸せ体質にしてあげれば将来も幸せになる

千葉県のあるお母さんは、長男に中学受験をさせたいと考え、この夏休みは猛勉強させようと張り切っていました。でも、本人は一向にエンジンがかからず、お母さんは毎日叱りつけながら勉強させています。

大阪のあるお父さんは、子どものだらしがないのを直そうと決意し、「出したら片づける」「やるべきことを先にやる」「字をていねいに書く」の3つについて、毎日口うるさく叱っています。そして、「出しっぱなしの玩具は庭に捨てる」「雑な字は全部消して書き直し」と宣言して実行しています。

このように、毎日叱り続けて、子どもを不幸せにしている親たちがたくさんいます。そして、その心の中にあるのは「この子の将来のために今のうちに…」という思いです。

これは、本人たちは意識していないと思いますが、子どもの将来の幸せのためには、今の毎日は不幸せでよいと考えているということです。私はこういう考え方は根本的に間違っていると思います。

というのも、毎日叱られている子は、「自分はいつも叱られてばかりだ。本当に自分はダメだな。何をやってもうまくいかない。お父さんもお母さんもぼくのことをダメな子だと思ってる。ぼくのこと嫌いなんだろうな。毎日つまらないな」といった思いでいっぱいになり、これがその子の基本的な自己認識になってしまうからです。

こうなってしまうと、いつまで経っても幸せになれません。不幸せが身につけて不幸せ体質になってしまうのですから、幸せになれるはずがありません。

子どもには、ぜひ次のような自己認識が持てるようにしてあげて欲しいと思います。「自分はけっこういい感じだ。お父さんもお母さんもぼくのことをほめて認めてくれる。大切に思ってくれているんだ。うれしいな。元気が出てくるな。あれもやってみよう。これもやってみよう。ぼくは絶対できるよ。ああ、毎日楽しいな」。

言い換えると、幸せ体質にしてあげるということです。子どものときの一日一日が幸せなら、その延長線上で自然に将来も幸せになります。ですから、将来の幸せのために今を犠牲にするという発想の子育てはやめて、今の一日一日を幸せにしてあげてください。

●「やってあげると自立ができない」というのは罪深い迷信

自分で起きない子を起こしていると、いつまでも起きようにならない。片づけができないのをやってあげていると、いつまでもできるようにならない。自立ができない。

このような話が子育ての本によく出てきます。でも、本当はそんなことはありません。こういう話は迷信です。しかも、実に罪深いです。

この迷信のせいで、親たちは子どもができないことを手伝ったり、やってあげたりすることができなくなっています。たとえやってあげるにしても、叱りながらできないとできない。そのせいで、多くの親と子どもが不必要に苦しんでいます。

もちろん、子どもが苦手なことは、できるように工夫してあげることが大切です。片づけが苦手なら、ワンタッチ収納、ラベリング、片づけタイムなどです。でも、それでもできないことは多々あります。親子ともどもどうしようもないときがあるのです。そういうときどうするかが大事です。

そういうとき、ほとんどの親は、「また〇〇してない。ダメでしょ」と否定的に叱ります。それで、子どもはますます苦手意識が高まり、よけいできなくなります。否定的な言葉を浴び続けることで、「自分はダメな子だ」と思うようになり、「自分は愛されていないのかも」という愛情不足感を持ちます。こういう負の連鎖で、ますますがんばる気力がなくなります。

こんなことになるくらいなら、やってあげた方がよほどマシです。どうしてもできないときはやってあげて、たまにちょっとでもできたらほめて、少しずつ手を離していけばいいのです。もちろん、自分でやろうとしているのに時間がかかっているだけというときは、待ってあげて自分でやらせてあげてください。

そのうちに子どもも成長して、だんだんできるようになります。子どもには自然成長というものがありますから、時間が解決してくれることも多いのです。

できないことを叱り続ける親よりも、いちいち叱らず気持ちよくやってくれる親の方が、かえって子どもはできるようになります。「やってあげると自立ができない」などと言って、子育てを不必要に苦しいものにするのは、もうやめようではありませんか！

●生まれつきの資質に沿って伸ばしましょう

人の才能や性格には生まれつきの資質があります。才能としては、運動神経の良し・悪し、数学の得意・不得意、片づけの上手、下手などです。性格としては、せっかち・マイペース、社交的・内向的、嫌なことは先にやる・嫌なことは後回しなどです。

子どもの生まれつきの資質を無理に変えようとするより、資質に沿って伸ばした方がうまくいきます。なぜなら、長所にしろ短所にしろ、生まれつきの資質は簡単には変えられないからです。

絵が好きなら絵を応援してあげましょう。「絵なんか描いてないで漢字を書きなさい」と自分の価値観を押しつけないで。運動が好きなら運動を、ダンスが好きならダンスを、

メカが好きならメカを応援してあげましょう。
好きで得意なことを伸ばせばいい循環が始まります。毎日が楽しくなり生き生きしてきます。自分に自信がついて、他の面でもがんばれるようになります。
それと同時に、もう一方では苦手なことに目をつむる勇気が大切です。マイペースでのんびりしている子を叱り続けてもムダです。生まれつきのリズムは変えられません。マイペースな子は穏やかで優しくったりすることが多いので、それでよしとしてください。
私の経験では、片づけの上手・下手もほぼ生まれつきです。640件の家を家庭訪問して、証拠はたくさん見てきました。片づけが苦手な子を叱り続けても簡単には直りません

。生まれながらに苦手なことは、親が叱り続けても簡単には直らないのです。直らないばかりか、深刻な弊害が出ます。よく叱られる子は、「自分はダメな子だ」と思い込み、何事にもやる気を失います。また、親の愛情を疑うようになり、その不安から衝動的に親に心配かける行動をしてしまいます。心配する姿を見て親の愛情を確認するのです。
というわけで、生まれつきの資質に沿って伸ばすには、一方で得意なことを応援しつつ、もう一方で苦手なことを叱り続けるのはやめて、目をつむることが大切です。
この2つめが難しく、1つめはできても2つめができない親が多いのです。2つめも実行することで子どもは大いに伸びます。子育てでは思い切って目をつむる勇気が本当に大切です。



中丸小学校 P T A
会 長 宮越 比呂子
文化厚生委員長 菊池 香織

文化厚生委員会 第 2 回家庭教育学級 活動報告書

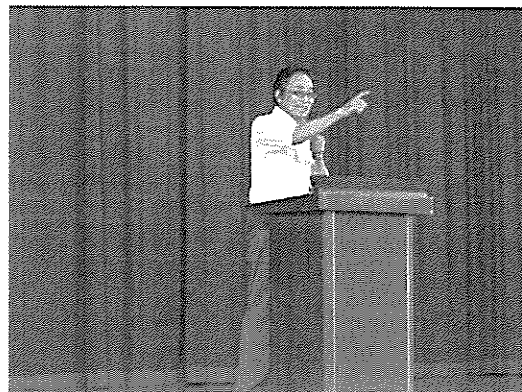
叱らなくても子どもは伸びる ～目から鱗の子育てと家庭教育～

第 2 回家庭教育学級を下記の通り実施しましたので、ご報告いたします。

日 時 : 平成 28 年 9 月 29 日(木曜日) 10:00～11:30
場 所 : 中丸小学校 体育館
講 師 : 親野 智可等先生
参加者 : 115 名

～講師プロフィール～

公立小学校で 23 年間教師を務める中で、親が子どもに与える影響力の大きさを痛感。教師としての経験、知識、理解、技術を少しでも子育てで役立ててもらいたいとメルマガを発行。具体的ですぐできるアイデアがたちまち評判を呼び、各メディアで絶賛される。子育て中の親や教師の圧倒的な支持を得て、メルマガ大賞の教育・研究部門で 5 年間連続第一位に輝いた。



講演の概要

◆ 自己肯定感

親は子どもの短所に目がいきがちです。短所に注目して叱り続けていても、決してよいことはありません。否定的な言葉をシャワーのように浴びていると、子どもは自信がなくなり、自己肯定感をもてなくなってしまいます。

昨今、叱るときは人格否定(「あなたはだめね、ずるい」など)ではなく、物事や事象について叱りましようと言われていますが、それも間違いです。子どもにしてみれば、自分をとがめられているのと同じで、人格否定されていると感じてしまいます。それが続くと愛情不足を感じ、愛情確認行動につながります。反社会的行動で、無意識のうちに親を心配させ、愛情を確認するようになってしまいます。

親が一番大事なわが子に小言ばかり言ってしまうがちなのは、そこに親の「こういう子に育ててほしい」という願いや、子どものうちにきちんとしつけなければ、という焦りがあるからでしょう。

しかし、子どもの脳は「新しい事を吸収するのは得意だが、もって生まれた資質を変えることは難しい」という真実を親は受け止めましょう。同時に子どもの性質を今すぐ変える必要はないという真実もあります。

子育てのコツは、「難しいことは後回し」。時間が解決することが多くあるのです。長い年月、本人にやる気のスイッチが入る時が必ずきます。夢や目的意識をもった時に、必要なことは必ずできるようになるのです。この時、自分でしか押すことのできないこのスイッチを押せる人と、押せない人がいます。自己肯定感をもっている人は押せますが、もっていない人は押せないのです。今、私たち親にできることは自己肯定感を育てながら、できるようになるのを待つことなのです。

◆ 合理的な工夫

では、目の前の子どもたちに今どうするか。叱っても自分からはできるようにならないので、できるような工夫をしてあげればよいのです。たとえば、歯磨きをいつも忘れるなら、食事の時に歯ブラシを一緒に出しておく。そうすれば食事の後、すぐ磨く習慣ができる。一週間続けたら出すのをやめてみて、自分で磨くことができたらしめる。もしできなければ、また歯ブラシを出してあげればよい。

できるような工夫をする → できたらほめる → 少し離れて見守る

このように合理的な工夫とは、取りかかりのハードルを低くしてあげることです。宿題や勉強も、ノートを開いてまず一問解いておくだけでも終わりまでの見通しがつき、子どもの心は軽くなります。

時間の概念が未発達な子どもには、模擬時計が効果的です。本物の時計の隣に模擬時計(画用紙に時計を描いて終えるべき時間を書いておく)を置くと、実際の時間と終えるべき時間の差を目で確認する事ができ、残り時間が「見える化」されます。子ども自身が行動のペースを調整することができるようになります。

◆ 言い方の工夫

否定的にとがめる言い方をすると、子どもは素直に聞くことができません。「見直ししないといつまでもできないよ。」ではなく、「見直しすると10点あがるよ。」など、前向きな表現で言われると、素直に受け入れる事ができます。また、できるようになってからほめるのではなく、ほめられる部分を見つけ出して、まずは、ほめてあげましょう。

◆ あきらめる勇気

どんなに工夫してもできない苦手なことは、親があきらめる勇気も必要です。どうしてもできないことは、親が手伝ってあげればよいのです。

「手伝ってしまうといつまでも自立できるようにならない」というのは勘違いです。基本的な生活習慣が一人でできることが自立ではないのです。これは今できなくても、やがて目的意識をもち、本人がその気になれば一瞬でできることばかりです。

本当の自立とは「自分でやりたいことを、自分で見つけ、自分でやる」ことです。親に言われたことをただやっているだけでは、子どもは「指示待ち人間」になってしまいます。そうならないためにも、子どもが好きでやりたいと思うことを応援することです。そうすれば自己実現力を高める事ができます。

◆ 正論ではなく共感

とにかく共感することがとても大事です。正論をおしつけるのではなく、共感を繰り返すと、子どもは「お母さんはわかってくれる」と、親に対する信頼感が深まります。

共感する前に励ましたりアドバイスをしたりすると、子どもには説教に聞こえ、わかってももらえないと感じ、本音を話さなくなるので気をつけましょう。

講演を終えて(参加者アンケートより)

- 毎日、口うるさく細かい事を叱ってきました。“整理整頓、時間管理”はしつけでは変えられないとの言葉にビックリ!! 本当に目から鱗!! 私はしつければきちんとできると思っていました。今日聴講できてよかったです。“共感”することを忘れずに、自己実現力が育つように応援していきたいと思います。
- 迷いがあった部分をそれでいいんだよ!とポンと背中を押してもらったような気分です。ゆったりした気持ちで子どもと向き合っていこうと思います。
- 今日から共感します!! 具体的なお話で大変わかりやすかったです。やる気スイッチが入った時の自己肯定力、本当に大切です。貴重なお話ありがとうございました。親としてやる気スイッチが入りました。
- 著書は数冊拝読させていただいておりましたが、はやり直に講演を聞くことのエネルギー、力強さを享受しました。今後の子育て、他者との関わりあいに活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

親野先生のお話に参加者が引き込まれました。総勢 650 名の生徒と関わってきた親野先生の実際の体験、エピソードを交えてお話くださり、非常にわかりやすく、またすぐ実践できる内容の、とても素晴らしいご講演となりました。親野先生、本当にありがとうございました。